

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院認知症疾患医療センターに、通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学神経内科学講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

レヴィ小体型認知症 (Dementia with Lewy bodies, DLB) 診断のための簡易スクリーニング検査の開発と有用性の検討

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学神経内科学講座 講師 廣西 昌也

3. 研究の目的

レヴィ小体型認知症 (DLB) では、認知機能の変動や幻覚、パーキンソニズム、向精神病薬への過敏性といった特徴的な症状が、患者さんの生活の質 (QOL) 低下や介護者の負担増大の要因となるため、早期診断・治療介入が重要です。DLB スコアを作成し、認知症精査目的に受診した患者さんに広く実施して、DLB 診断のスクリーニングツールとなり得るかどうかを検討します。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

平成 27 年 3 月 1 日から平成 28 年 4 月 30 日までの期間中に、認知症疾患医療センターを受診し、検査を受けられた方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、初診時に記入頂いた DLB スコアというアンケートの結果です。

(3) 方法

上記アンケートの結果と、最終の診断結果を統計学的に分析し、レヴィ小体型認知症の鑑別により適したスコアを作成し、妥当性を検討します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学神経内科 担当医師 森 めぐみ 廣西 昌也

TEL : 073-447-2300 (代表)